

主婦の嗜好飲料（第2報）

——冬期における摂取状態と地方差について——

山岸 恵美子*

I 緒言

わが国において古くから広く人々の間で飲料に供されている茶は、特有の香気と味とを有し、その上価格が他の飲料に比較して著しく安いという利点を備えるため、インスタント飲料が普及されてきた今日においてもなお相当消費されているが、なかでも長野県人、特に主婦は、その消費量が高いので知られている。これは本県の気候が一般に湿度低く、しかも1年を通して寒暑の差が著しいこと、および長い単調な冬ごもり生活から生れた茶飲み話（こたつ談義）の習慣によるものと思われるが、その実態はどうか。

このことを知るため、著者は昭和33年夏市町村を含む北信地方10地区の健康な主婦400名を対象として、茶を中心とした嗜好飲料の摂取状態について調査したところ、茶は夏期においても家の職業の種類に関係なく多くの嗜好飲料中1番飲まれ、しかも飲んでいる理由が“のどが乾く”という生理的欲求の他に、“習慣”および“親睦（喫茶を通して家族や隣人と親しむ）”“話時淋しい”という心理的なものが非常に多いのを認めた。¹⁾

そこで今回は冬期における主婦の嗜好飲料の摂取状態と地方による差異をみる目的で、調査対象を北信地方でも県境で積雪期間の長い飯山地方（下水内郡も含めた）と、生活文化に比較的恵まれた地方都市である長野市と、さらにこれに加え、生活環境の全く異なる東京の1地区の3ヶ所に求め、比較検討してみた。

II 調査方法

(1) 調査期間

冬期間の中最も寒く、しかも来客等の諸条件に比較的左右されることが少ないと思われる37年2月中旬に調査した。

(2) 調査対象

飯山地方は市と村の1地区を選んだ。市の調査は飯山市太田中学校に通学する生徒の母親に、村の調査は下水内郡栄村北信中学校に通学する生徒の母親についておこなった。

長野地方は旧市内に存在する柳町中学校と西部中学校に通学する生徒の母親についておこない、新しく市に合併した農村部は地方都市の条件に該当しないと思われたので除外した。

東京地方は世田谷区立千才中学校に通学する生徒の母親についておこなった。この地区は表1に示すとおり公務員、会社員の家庭が半数をしめ、商業家庭が少なく、東京都全体を代表している地区とは思われないが、この地区の実態を把握すれば、都内他地区の状態も或程度は推定出来るものと思われる。

* 生活科学第二助手

(3) 調査人数

飯山および長野地方は各200名、東京地方は150名としたが、回収率は飯山地方88.5%、長野地方88.0%東京地方66.7%であった。

調査をおこなった主婦の年齢は表2のとおりである。

Ⅲ. 調査結果とその考察

地方別の傾向差の検討はそれぞれの地方の母集団分布型が不明であるので、 χ^2 による無相関検定(以下 χ^2 検定とよぶ)によって検定をした。 χ^2 検定では分割表の実数の組度数が5以上なければならないので、検定に際しては表中点線の部分内で合併した。危険率は5%とした。

検定は飯山、長野、東京の3地方間と、長野、東京および飯山、長野の2地方間でおこない、特殊な場合(たとえば飯山、長野、東京の3地方間には有意差が認められ、長野、東京および飯山、長野の2地方間には認められない場合)に限り飯山、東京地方間の検定をおこなった。

結果処理の表中の数値は百分率である。なお1つの質問に対して解答を1つ求めた場合と2つ以上求めた場合とがあり、また1つの解答に対して2つ以上答えたものもあったが、これらは1率にとりあげて計算した。

(1) 主婦が1番飲んでいる飲料について

冬期に主婦が1番飲んでいる飲料は表3のとおりで、3地方とも緑茶を1番飲んでいたが、その割合は飯山地方89%、長野地方63%、東京地方57%で田舎へいくに従い増加していた。次に多く飲んでいる飲料はコーヒー(ココア)、牛乳で、東京地方では13%および12%、長野地方は11%および16%で長野地方は東京地方に近い摂取状態であったが、飯山地方ではおのおの3%という低率であった。当然のことながら調査期間が冬期であったため暖かい飲料を好み、ジュース、サイダー、カルピスなどは全然飲んでいないかあるいは飲んでいてもごく僅かであった。

常用飲料の地方による嗜好に差異があるかどうかをしらべるために、長野—東京地方について χ^2 検定すると、 $\chi^2_1=6.27$ となり $\chi^2(0.05)=7.82$ より小となる。したがって長野と東京地方の主婦の嗜好には有意差が認められなかった。また飯山—長野地方においては $\chi^2(0.05)=7.82$ 、 $\chi^2_1=33.61$ で $\chi^2(0.05) < \chi^2_1$ となり有意差が認められた。

(2) 喫茶について

1番多く飲んでいる茶について毎日飲んでいるかどうかを調査したところ表4のとおりで3地方共大部分の主婦が毎日飲んでいたが、その割合は予想に反して都会の主婦ほど多く、 χ^2 検定により1番飲んでいる飲料の場合と同じく、有意差は飯山—長野地方に認められた。ぜんぜん飲まない主婦がいないことから、茶は主婦達の嗜好に合い、日常生活にとって欠くことの出来ない飲料となっていることがうかがえた。

茶の種類：飲んでいる茶は表5のとおりで東京地方は煎茶を1番飲んでいたが、飯山、長野地方では煎茶と共に番茶も相当飲んでいた。玉露は飯山地方においては3%という低率であったが、長野、東京地方は13%および11%であった。全体として番茶のしめる割合は田舎へいくに従い増加し、煎茶、紅茶、玄米茶は逆であった。

これらのことから都会の主婦の方が茶の嗜好に巾があり、日常生活においてさまざまな種類の茶を飲んでいることがうかがえた。 χ^2 検定により有意差は3地方間に認められた。

1日の喫茶量：喫茶量の傾向分布は表6のとおりで有意差を認めることができなかったが、飲量の地方による平均の差は25%の危険率で有意差が認められた。(t検定による)しかし10%では認められず、3地方の主婦の喫茶量の間には大きい開きがないことがわかった。これは著者の予測に反するものである。

しかし、1日に茶を飲む回数の平均は表7のとおりで、飯山、長野地方より東京地方の方が1回多く、逆に1日に飲む茶の量の平均は表8のとおりで、東京地方より飯山、長野地方の方が1杯多くなっている差があった。また傾向分布においても、1日に飲む回数および1日に飲む量は表7、8の処理に示すとおり長野—東京地方で明らかに有意差が認められた。

これは都会と田舎の主婦の労働状況の差異からくるものであると思われる。すなわち都会の主婦は田舎の主婦に比較して雑用が少く、時間的余裕に恵まれているため、喫茶回数を多くとることができ、その結果必然的に1回の喫茶時間が短縮されてきているものと思われる。田舎の主婦の状態はこの逆である。また、都会の主婦の方が田舎の主婦より喫茶時間をつくりやすいことは、表4をみても明らかである。

茶を飲む理由：表9のとおりで、3地方共“習慣”が24%~29%で1番多く、次で共通に多いと思われるものが“のどが乾く”“おいしい”であった。また“親睦”は飯山、長野地方では20%内外みられた。

全体として“習慣”“おいしい”“栄養”は都会へいくに従い増加し“親睦”“話時淋しい”はその逆で、田舎の主婦達の茶飲み話によるつき合いの一端がうかがえた。また緑茶の浸出液にはビタミンCがかなり存在するので、栄養上飲むというのはビタミンの摂取にあると思われる。なお“栄養”の中には、喫茶による身心の疲労回復の意味も含まれていると思う。 χ^2 検定により有意差は3地方間に認められた。

茶を飲む時の付け合せ：表10のとおりで、飯山、長野地方は冬期の保存食品である漬物が多くみられたが、飯山地方ではこの他煮物も相当使われていた。東京地方は生菓子が多かった。駄菓子とは3地方共非常に用いられていた。 χ^2 検定により有意差は3地方間で認められた。

(3) 茶以外に毎日飲んでいる飲料について

茶以外に毎日一定の飲料を飲んでいる主婦は、東京地方53%、長野地方36%、飯山地方13%で都会へいくに従い増加していた。

飲料の種類：表11のとおりで3地方共牛乳を1番好み、各地方とも主婦の約半数は飲んでいて、次はコーヒー(ココア)で、ジュース、ヤクルトはあまり飲んでいなく、 χ^2 検定により有意差は3地方間で認められなかった。

飲む理由：表12のとおりで、3地方とも栄養上飲んでいる人が1番多く、表には示さなかったが牛乳では81%の高率である。次に多い理由が“おいしい”でコーヒー(ココア)飲用者の45%はこの理由による。また牛乳でも“おいしい”が14%あった。なお、ジュース、ヤクルト等の飲料は実数が少ないため考察しづらい。茶を飲む理由中比較的多かった“習慣”“親睦”はここでは僅かしかみられなかった。 χ^2 検定により有意差は長野—東京地方に認められた。

(4) 来客時に出す飲料について

飲料の種類：表13のとおりで3地方とも緑茶を1番出していたが、その割合は田舎へいくに従い増加し、東京地方54%であるのに対して飯山地方は92%という高率であった。コーヒー(ココア)、紅茶はその反対で、東京地方43%に対して飯山地方は5%という低率で、 χ^2 検定により有意差は3地方間で認められた。

付け合せ：来客時に出す飲料の付け合せを総括して地方別に考察すると表14のとおりで、飯山地方は駄菓子と漬物で約70%しめていたが、長野、東京地方は生菓子が1番多かった。次で長野地方は漬物の

28%、東京地方は駄菓子子の26%であった。また果物は都会へいくに従い多く、煮物はその反対であった。これを飲料別にみると表15のとおりで、緑茶、番茶は総括して地方別に考察した場合と同様の傾向を示すが、コーヒー（ココア）、紅茶は異り、3地方共生菓子を1番出していた。ジュース、サイダー等の飲料は実数が少いために省略した。 χ^2 検定により3地方間に有意差が認められたが、その差は長野—東京地方よりも飯山—長野地方の方が大きかった。

(5) 飲みたい飲料について

最後に各地方の主婦がいかなる飲料を希望するかを調査したところ、解答率は飯山地方53%、長野地方59%、東京地方63%で、残りの主婦は特別に希望をもたないようであった。

飲料の種類：表16のとおりで、飯山地方は牛乳、コーヒー（ココア）、長野地方は緑茶、牛乳、東京地方は緑茶、コーヒー（ココア）の順で、都会へいくに従い牛乳より緑茶に変わっていった。コーヒー（ココア）は長野地方においても15%の希望者がみられたが、表3を照合して希望者の割合に飲用者が少ないのは価格の点にあると思われる。コーヒー（ココア）に比較して紅茶は予想のほかに少ない数値を示した。 χ^2 検定により有意差は飯山—長野、長野—東京地方には認められなかったが、飯山—東京地方になると認められた。

飲みたい理由：飲料別に考察すると、表には示さなかったが、緑茶は“おいしい”が41%の“のどが乾く”が25%であり、コーヒー（ココア）、紅茶はほとんどが“おいしい”という理由であった。乳酸飲料、ジュースは“おいしい”と“栄養”が同じ割合になっており、この2つが理由中大部分をしめていた。牛乳はほとんどが“栄養”で“おいしい”は7%にすぎなかった。

これらを総括すると飲みたい理由は表17のとおりで、東京地方は“おいしい”が半数であったが、飯山、長野地方では“おいしい”と“栄養”が同じ割合になっていた。“のどが乾く”は長野、東京地方ではおのおの17%みられたが、飯山地方は5%にすぎなかった。また“親睦”のしめる割合は少なく、飯山、長野地方でも7%しかみられなかった。有意差は3地方間に認められた。

以上の結果を総合して考察すると、田舎の主婦より都会の主婦の方が摂取する食品の種類が多く、比較的バランスのとれた栄養状態にあることがうかがえた。これは月々の収入により消費生活をしている都会人と、生産の少ない冬期に保存食品を最大限に利用して表面上（金銭上）の消費をさせている農業家庭の多い田舎の人との生活形態のちがいに由来するものと思われる。しかしそれだけに都会の主婦が飲みたい飲料として緑茶をあげているのに対して、田舎の主婦は栄養価の高い牛乳をあげ、身体の健康に留意していた。

長野地方の主婦の嗜好飲料と付け合せ食品の摂取状態およびこれに対する考え方は、ちょうど飯山地方と東京地方の主婦のそれを折衷し、ある場合には飯山地方の主婦に近く、またある場合には東京地方の主婦に近づいていた。

IV 総括

飯山、長野、東京地方の主婦の冬期における嗜好飲料の摂取状態と地方差の有無を調査した結果を要約すれば、次のとおりになる。

(1)主婦が1番多く飲んでいる飲料は3地方とも緑茶で、ほとんどの主婦が毎日飲んでしたが、喫茶量については明確な地方差を認めることができなかった。

(2)茶を飲む理由は3地方とも、“習慣”が1番多く、次で共通に多いものが“のどが乾く”“おいしい”であり、“親睦”“話時淋しい”の項目において比率に差が認められた。

(3)茶を飲む時の付け合せは飯山、長野地方は漬物、東京地方は生菓子が多く、駄菓子も地方差なく沢山出されていた。

(4)茶以外の飲料を毎日飲んでいる主婦は都会へいくに従い増加し、何れも牛乳が一番多くて地方差がみられず、理由は3地方とも“栄養”“おいしい”の順であった。

(5)来客時に出す飲料は3地方とも緑茶が一番多かったが、その割合は田舎へいくに従い増していた。東京地方ではこの他に紅茶、コーヒー(ココア)も相当用いていた。

この時の付け合せは飯山地方は漬物、駄菓子、長野地方は生菓子、漬物、東京地方は生菓子、駄菓子が主であった。

(6)飲みたい飲料は飯山地方は牛乳、コーヒー(ココア)、長野地方は緑茶、牛乳、東京地方は緑茶、コーヒー(ココア)の順で、東京地方の主婦がおいしい飲料を求めているのに対して飯山、長野地方の主婦はおいしいとともに栄養のある飲料を求めている。

(7)摂取飲料および付け合せ食品を総合すると、都会の主婦の方が食品の種類が多く、バランスのとれた栄養状態にあった。

(8)長野地方の主婦の嗜好飲料と付け合せ食品の摂取状態およびこれに対する考え方は、飯山と東京地方の主婦のそれを折衷していた。

終りに本調査をおこなうにあたり御協力下さった本学卒業生山極ゆり子、大塚富美子、塚田とめお、西条智子、酒井睦子諸氏に厚く御礼申し上げる。

文 献

- 1) 山岸：栄養改善学会抄録集 13 (1959)
- 2) 荒井：栄養と食糧 14 3 61(1961)
- 3) 岩田：食品学 養賢堂 (1960)
- 4) 高橋：赤羽：栄養調査のやり方まとめ方 第一出版 (1960)
- 5) 寺田：推測統計法 朝倉書店 (1951)

表1 家の職業(%)

職業	地方名	飯 山	長 野	東 京
農 業		80.2	5.1	4.0
公 務 員	会 社	1.1	54.0	68.7
商 業		4.5	22.9	9.3
そ の 他		0.6	5.1	0
無 解 答		13.6	12.9	18.0
百 分 率 (実数)		100.0(177)	100.0(176)	100.0(100)

表2 主婦の年齢(%)

年齢	地方名	飯 山	長 野	東 京
31 ~ 35 才		6.4	4.5	5.0
36 ~ 40		17.0	25.4	30.0
41 ~ 45		38.5	21.5	32.0
46 ~ 50		17.6	17.5	19.0
51 ~ 55		12.5	12.4	4.0
56 ~ 60		2.3	6.3	1.0
無 解 答		10.7	12.4	9.0
百 分 率 (実数)		100.0(177)	100.0(176)	100.0(100)

表3 1番多く飲んでいる飲料(%)

種類	地方名	飯 山	長 野	東 京
緑 茶		89.0	63.3	57.3
番 茶		1.2	2.1	0.7
紅 茶		1.2	4.4	13.2
コーヒー(ココア)		2.8	10.9	13.2
牛 乳		2.9	16.4	11.8
ジ ュ ー ス		0	2.1	1.5
そ の 他		2.9	0.8	2.8
百 分 率 (実数)		100.0(172)	100.0(224)	100.0(136)

表3の処 理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯 山・長 野・東 京	6	52.93	12.59	有 意
長 野・東 京	3	6.27	7.82	な し
飯 山・長 野	3	33.61	7.82	有 意

表4 茶をのんでいるか(%)

状態	地方名	飯 山	長 野	東 京
毎日のんでいる		79.6	89.6	94.0
時 々 "		14.7	10.4	4.0
来客時だけ "		5.7	0	2.0
全然のんでいない		0	0	0
百 分 率 (実数)		100.0(176)	100.0(173)	100.0(100)

表4の処 理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯 山・長 野・東 京	2	12.62	5.99	有 意
長 野・東 京	1	1.76	3.84	な し
飯 山・長 野	1	7.09	3.84	有 意

表5 茶の種類(%)

種類		地方名	飯 山	長 野	東 京
煎	茶		40.8	44.4	45.2
番	茶		48.6	30.5	16.8
玉	露		3.3	13.4	11.0
紅	茶		2.8	7.3	16.8
玄	米 茶		0	3.0	5.8
そ	の 他		4.5	1.4	4.4
百 分 率 (実数)			100.0(179)	100.0(258)	100.0(137)

表5の処理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯山・長野・東京	8	61.30	15.51	有 意
長 野・東 京	4	16.82	9.49	有 意
飯 山・長 野	4	24.07	9.49	有 意

表6 1日にのむ茶の量(%)

茶の量(ml)		地方名	飯 山	長 野	東 京
0	〜 360		18.0	21.0	29.0
360	〜 720		34.0	35.0	34.0
720	〜 1080		27.0	24.0	18.0
1080	〜 1440		8.0	9.0	7.0
1440	〜 1800		6.0	4.0	6.0
1800	以 上		7.0	7.0	6.0
百 分 率 (実数)			100.0(141)	100.0(152)	100.0(85)
平 均			803ml	760ml	702ml
標 準 偏 差			502ml	507ml	510ml

表6の処理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯山・長野・東京	10	7.87	18.31	な し
長 野・東 京	5	2.86	11.07	な し
飯 山・長 野	5	1.77	11.07	な し

表7 1日にのむ茶の回数(%)

回数		地方名	飯 山	長 野	東 京
1	～	2	29.1	33.0	5.7
3	～	4	53.1	50.6	54.6
5	～	6	14.6	13.5	31.6
7	以	上	3.2	2.9	8.1
百 分 率 (実数)			100.0(158)	100.0(170)	100.0(58)
平 均			3.3回	3.2回	4.4回

表7の処理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯山・長野・東京	6	32.97	12.59	有 意
長 野・東 京	3	27.34	7.82	有 意
飯 山・長 野	3	1.38	7.82	な し

表8 1回にのむ茶の量(%)

杯 数		地方名	飯 山	長 野	東 京
1	～	2	17.5	23.2	66.6
3	～	4	61.1	54.3	22.6
5	～	6	17.5	18.9	5.4
7	以	上	3.9	3.6	5.4
百 分 率 (実数)			100.0(154)	100.0(164)	100.0(93)
平 均			3.6杯	3.6杯	2.5杯

表8の処理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯山・長野・東京	6	67.92	12.59	有 意
長 野・東 京	3	44.95	7.82	有 意
飯 山・長 野	3	1.58	7.82	な し

表9 茶をのむ理由(%)

理 由	地方名	飯 山	長 野	東 京
習 慣		24.0	25.8	28.8
お い し い		14.7	17.4	26.7
の ど が 乾 く		17.1	22.7	16.7
親 睦		20.9	17.7	5.0
栄 養		6.7	9.3	10.6
身体が暖かくなる		6.3	4.0	7.2
話 時 淋 し い		9.3	1.9	1.1
そ の 他		1.0	1.2	3.9
百 分 率 (実数)		100.0(316)	100.0(322)	100.0(180)

表9の処理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯 山・長 野・東 京	12	30.07	21.03	有 意
長 野・東 京	6	26.37	12.59	有 意
飯 山・長 野	6	18.93	12.59	有 意

表10 茶をのむ時の付け合せ (%)

種 類	地 方 名	飯 山	長 野	東 京
漬 物		40.7	33.3	11.5
駄 菓 子		32.6	35.2	37.6
生 菓 子		4.0	14.8	36.9
果 物		5.5	9.3	10.2
煮 物		17.2	6.7	0
何 も な し		0	0.5	2.5
そ の 他		0	0.2	1.3
百 分 率 (実数)		100.0(337)	100.0(420)	100.0(157)

表10の処 理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯 山・長 野・東 京	8	140.60	15.51	有 意
長 野・東 京	4	48.67	9.49	有 意
飯 山・長 野	4	44.23	9.49	有 意

表11 茶以外に毎日のんでいる飲料 (%)

種 類	地 方 名	飯 山	長 野	東 京
牛 乳		43.4	64.0	51.0
コ ー ヒ ー (コ コ ア)		30.4	21.9	37.7
ジ ュ ー ス		4.4	1.6	5.7
ヤ ク ル ト		4.4	7.8	3.8
そ の 他		17.4	4.7	1.8
百 分 率 (実数)		100.0(23)	100.0(64)	100.0(53)

表11の処 理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯 山・長 野・東 京	4	7.02	9.49	な し
長 野・東 京	2	4.21	5.99	な し
飯 山・長 野	2	3.13	5.99	な し

表12 茶以外の飲料を毎日のむ理由 (%)

理由	地方名	飯 山	長 野	東 京
栄	養	60.0	79.3	47.9
お	い	20.0	15.9	29.2
習	慣	8.0	1.6	6.2
親	随	8.0	0	6.2
そ	の	4.0	3.2	10.5
他				
百 分 率 (実数)		100.0(25)	100.0(63)	100.0(48)

表12の処 理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯 山・長 野・東 京	4	11.88	9.49	有 意
長 野・東 京	2	10.39	5.99	有 意
飯 山・長 野	2	2.98	5.99	な し

表13 来客時に出す飲料 (%)

種 類	地方名	飯 山	長 野	東 京
緑	茶	92.0	70.0	53.9
番	茶	0.6	2.4	0
コ	ー	2.8	15.2	22.2
ヒ	ー			
ー	(
コ	コ			
ア)			
紅	茶	1.7	6.6	20.8
ジ	ュ	1.7	2.9	1.5
ー	ス			
サ	イ	0.6	1.9	0.8
イ	ダ			
ー				
そ	の	0.6	1.0	0.8
他				
百 分 率 (実数)		100.0(174)	100.0(210)	100.0(131)

表13の処 理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯 山・長 野・東 京	6	70.82	12.59	有 意
長 野・東 京	3	20.18	7.82	有 意
飯 山・長 野	3	25.83	7.82	有 意

表14 来客時に出す飲料の付け合せ (その1) (%)

種 類	地方名	飯 山	長 野	東 京
生	菓	7.9	31.6	49.0
子				
駄	菓	34.8	20.7	25.5
子				
漬	物	34.6	28.1	3.4
物				
果	物	6.0	14.7	19.6
物				
煮	物	16.7	4.9	0
物				
何	も	0	0	2.5
な	し			
し				
百 分 率 (実数)		100.0(353)	100.0(488)	100.0(204)

表14の処理

比較地方名	自由度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	8	221.5	15.51	有意
長野・東京	4	57.80	9.49	有意
飯山・長野	4	112.88	9.49	有意

表15 来客時に出す飲料の付け合せ (その2) (%)

地方名 飲料 付け合せ	飯山		長野		東京	
	緑茶 番茶	コーヒー (ココア) 紅茶	緑茶 番茶	コーヒー (ココア) 紅茶	緑茶	コーヒー (ココア) 紅茶
漬物	35.2	20.0	29.6	22.9	2.9	3.3
駄菓子	35.8	20.0	21.6	18.7	28.5	24.2
生菓子	7.0	26.6	32.3	32.3	52.0	49.4
果物	5.8	6.8	12.1	21.9	16.0	23.1
煮物	16.2	26.6	4.4	4.2	0	0
百分率 (実数)	100 (327)	100 (15)	100 (364)	100 (96)	100 (102)	100 (91)

表16 のみたい飲料 (%)

種類	地方名	飯山	長野	東京
緑茶	茶	16.0	39.5	44.3
	番茶	9.6	2.9	3.2
コーヒー(ココア)	紅茶	18.1	15.4	20.7
	茶	2.1	2.9	4.8
牛乳		35.0	22.1	7.9
ジュース		5.3	7.7	11.1
乳酸飲料	サイダー	4.3	3.8	3.2
	その他	3.2	1.9	1.6
		6.4	3.8	3.2
百分率 (実数)		100.0 (94)	100.0 (104)	100.0 (63)

表16の処理

比較地方名	自由度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	8	22.57	15.51	有意
長野・東京	4	7.00	9.49	なし
飯山・長野	4	7.46	9.49	なし
飯山・東京	4	18.71	9.49	有意

表17 のみたい理由 (%)

理由 \ 地方名	飯 山	長 野	東 京
お い し い	40.0	35.4	53.2
栄 養	41.0	35.4	19.5
の ど が 乾 く	5.0	16.9	16.9
身体が暖かくなる	5.0	3.1	7.8
親 睦	7.0	6.9	0
そ の 他	2.0	2.8	2.6
百 分 率 (実 数)	100.0(100)	100.0(130)	100.0 (77)

表17の処 理

比較地方名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯 山・長 野・東 京	6	18.02	12.59	有 意
長 野・東 京	3	8.64	7.82	有 意
飯 山・長 野	3	10.45	7.82	有 意